

舞踊教育の現在

研究報告
出 演

松本千代栄
お茶の水女子大学
舞踊教育学科学生・院生

このレクチャー・デモンストレーションは、明日行われるシンポジウム「比較舞踊教育—大学(専門・一般)を考える—」で松本が報告するお茶の水女子大学舞踊教育学科の授業の中から、特徴のあるいくつかを紹介します。

1. PERCUSSION

演奏；お茶の水女子大学舞踊教育学科2・3年生有志

指導；柳沼輝子

これは「舞踊伴奏法」として開講されています。身体でリズムを感じること・歌うこと・間の表現の重要性を体得し、舞踊の表現にいかしています。

2. 課題学習

解説；櫻井益子

指導；宗京洋子・岡本悦子

次に松本の研究のプロフィールの一つとし「課題学習」のデモンストレーションを行います。

課題学習の設定は、①課題内容の設定②学習方法—創作学習モデルの設定③指導言語の検討と原則化、という3つの領域に分けられます。これらは1時間の学習に「踊る」「創る」「観る」活動を含み、楽しみながら舞踊の本質に触れることができるようにしくまれています。今日は、課題内容の設定と指導に焦点をおいて、その一部を展開いたします。

まず、課題は「対極の性質をもつ2つ以上の運動の連続体」として、いろいろな方向から設定されますが、今日は、その中から「運動課題」と「群—構成課題」を取り上げます。

次に、指導原則は、常に極限と多様化という2つの方向をもって進められます。「もっともっと」という言葉かけを中心に極限というものを十分に体得させ、「いろんな、違った、自分の」といった言葉かけによって様々な舞踊の要素の多様性を工夫させます。

1) Dance warm up

からだと心を解きほぐすという意図をもって行われます。

- ・リズムののって
- ・デッサン

2) 運動課題

- ・自然運動から課題化したもの

<伸—縮><走—跳>(激しく・ふわっと)

・より進んだ段階の課題

<走—跳—廻><廻>の変化(ゆっくり・はやく・大きく・低く・高く・頭を・胴を)

<足を挙げる—捻—見><捻—廻—見>

<保—廻—伏>(次第に高度に)

3) 群—構成課題

・空間性の課題

<トライアングル・カーブ>

・運動の表現質からの課題

<集まる—離れる>

群で<走—止—見>(3人組・感じ合って・即興的に)

<走—廻>(大きく・小さく)

(場と動き)(3人組)

全員で<自由方向に跳ぶ—固まる(上下に動く)><くりかえし>

2群に分かれ<走・跳・転・廻>のハーモニー—<全員>—<見>

これらの課題学習は、すでに実践段階にあり、宮崎県で行われた全国女子体育研究大会で、小・中・高の生徒達が生き生きと動く様子を見学しました。松本先生がおこなった国際会議報告では、その成果を注目され、先生は多くの国から招かれておられます。このように、新しいfor allの創作学習への手引きとして、課題学習の役割は今後ますます大きくなると思います。

3. 作品

毎年4月に行われている「卒業公演」における今年度の発表作品を3つご覧いただきます。

- 1) ソロ作品「さと子の日記」 斎藤真理子
- 2) 群舞作品「獅子出で立つ刻」 4年生
- 3) 群舞作品「13月の紅月」 院生有志

レクチャー・デモンストレーション提案趣旨

お茶の水女子大学舞踊教育学科は、「舞踊教育の現在」の一つの形として、カリキュラムと実践内容を示し、「次シンポジウム比較舞踊教育」を考える一助とした。体育科教育の中におかれた舞踊教育が、「舞踊学」として独立した学科となった日本のプロフィールでもある。「課題学習」は for all のダンス学習法として開発したものであり、IAPESGWアルゼンチン会議（1981年）の研究報告とレクチャー・デモンストレーションにより評価され、注目された。問題解決学習（project methods）を1時間学習から単元へとつなぐ「内容と方法を結んだ学習」である。



*この原稿は記録テープをもとにして、このたび新たに作成したものです。

（文責・本山益子）

（写真・相場 了）

*1984年春季第17回舞踊学会